

理学部中央図書室紹介

理学部等図書掛長 喜 多 吉 一

理学部に中央図書室が設置されたのは昭和56年4月で、設置場所は理学研究科1号館3階の一角でした（発足当時の中央図書室紹介記事が『静脩』Vol.18, No.1に掲載）。以後、1号館中央図書室の施設整備が進められましたが、研究室等施設の転用のため図書室各室が4箇所に分散する配置となり管理運用の非効率と施設有効利用の困難をもたらし、図書室の狭隘化の解消並びに新たな図書室機能の展開のうえで障害となっていました。



このたび、講義室、共同実験室・実習室、情報演習室、演習室などの教育用施設を集中した理学研究科6号館が本年3月竣工し、中央図書室は1号館から6号館1階・地階西側部分に移

転、4月8日にオープンしました。新図書室は1階と地階にまたがっており、書架への接架形式は雑誌書庫も含めて完全開架制となっています。



1階部分は主に学生用図書資料の利用のスペースで、開架閲覧室と自由閲覧

室があり、パーティション（簡易壁）によって間仕切られています。開架閲覧室には参考図書、一般図書、新着雑誌、利用者用検索端末、ブラウジングの各コーナーが配置されており、自由閲覧室は図書資料を利用しない学生が自由に利用できる自習室として主に利用されています。



地階部分は主に共同利用の学術雑誌利用のスペースで、雑誌書庫と視聴覚室を配置していま

す。自由閲覧室及び雑誌書庫は、図書室開室時間外にそれぞれ個別運用することが可能な施設構造となっています。ただ、諸事情によって、図書室施設に拡張の可能性を確保できなかったことと、地階部分の図書室施設が中央図書室雑誌書庫と理学研究科・理学部保存書庫等に分散したことは残念なことでした。

中央図書室は理学部の学習図書室としての機能にウェイトが置かれており、理学部学生の学習に活用される図書資料を主に収集しています。理学全分野の学生用図書資料を利用者に対し効果的に提供することは、学部教育での4年一貫教育において、理学部の教育理念「理学部における専門分野は個別的なものでなく、互いに密接な関連を持っているものである。学生が自ら自己に最も適当と思われる分野を見出し、それに関連する諸分野を含めて重点的に学習し、年次とともにその専門化の程度を進め、最終的には一つの専門分野についての研究にも触れるまでに到達する」に沿うことになると理解しています。

最後に、理学研究科・理学部図書室組織について、各専門分野の研究図書室機能を持つ各教室・施設図書室と、主に学習図書室機能を持つ中央図書室とで構成する分散型システムを取っており、研究・教育への支援機能を果たしています。

（きた よしかず）